

The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

October
ISSUE



October, 2025
Volume 160

新1年生入試と募集活動

2026年度の新1年生入試が終了しました。在校生や保護者の皆様には2日間のお休みをお願いすることになりましたが、将来のDIAを担っていくことになる子どもたちを、教員全員が一丸となって選抜させていただきました。

教頭職にとって、この入試というイベントが最も緊張します。一人一人の志願者の人生に大きくかかわることから、公正・公平な試験を実施することが求められるからです。夜中に突然目が覚めてしまって「あれはどうなってるんやろ？」と気になったり、なかなか寝られなかったりすることが多々ありました。

試験自体は8月下旬の親子面接から始まり、9月の試験日までなのですが、実は募集活動は昨年度の入試が終了した瞬間から始まっています。

それは、在校生の出身幼稚園や保育園、幼児教室などに連絡を入れて訪問させていただいたりご来校いただいたりしながらDIAの魅力の説明するという活動です。本校の児童は一般の幼稚園や保育園だけでなく、主に英語で保育を行う園からも多数入学いただいております。またご自宅も京都・大阪・奈良とバラエティに富んでいることから、様々な場所に出向いて学校説明会をさせていただいております。

説明の内容は本校の教育方針、とりわけ長所や魅力が中心となりますが、同時に学習に対する姿勢など、本校が求める厳しさもお伝えしています。いざ入学された後に「入学して良かった」と思っていただけのように、またお子様に本当に通わせたい学校を選択をしていただけるようにと思い、ご質問に対しても、お答えできる範囲になりますが、飾らず正直にお答えするように心がけています。

その他6月と2月に編転入学*試験を実施しています。6月は秋学期からの、2月は次年度の春学期からの編転入学のための入試であり、欠員のある学年のみの募集となります。

最近、編転入学ご希望の方からのお問い合わせが増加しています。現在海外にお住まいで日本に転勤が決まった方やそろそろ帰国という方が多く、大変うれしい限りです。そのような方へは一時帰国と本校の日程が合えば校内見学も可能としております。

私自身、これまでに国立・公立・私立と様々な小学校に勤務させていただき、現在は6校目となります。その中でもDIAの学校文化は、日本と海外の文化が両立していると感じます。チャイムが鳴らない、ディスカッションの授業が多い、だけではありません（それだけでも海外の文化として大きいと思いますが）。そのような面で、海外在住のお子様にとってもDIAは通いやすい環境なのではと思います。

教頭の仕事の一つとして、一人でも多くの方にDIAの魅力をお伝えするとともに、学校についてしっかりご理解いただいた上でご入学いただき、「通わせてよかった」と思っていただけのように、今後も努めてまいりたいと思います。

教頭 風間 寛

編転入学* 日本国内の小学校（いわゆる「1条校」）からの入学を「転入学」、それ以外の学校（海外の現地校など）からの入学を「編入学」と呼びます。



キリスト教教育

10月：誠実 October: Honesty/Integrity

聖書：「そして、毎日ひたすら心をつにして神殿に集まり、家ではパンを裂き、喜びと真心をもって食事を共にし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加えてくださったのである。」

使徒言行録 2章 46-47節（聖書協会共同訳）

今夏、同志社創立150周年の記念事業として行われた「新島襄の足跡を辿るアメリカツアー」に参加してきました。もう10年近く前の話になりますが、6年生の修学旅行の引率でボストンとアーモストには3回行かせて頂いたことがあります。しかしながら、アンドーヴァーとラットランドはコースに含まれていませんでしたし、特に新島が帰国直前、学校設立のための募金を呼びかける有名なスピーチを行ったグレイス教会だけは、どうしても見ておきたい場所でした。そんなわけで、久しぶりにアメリカの地を踏もうと一大決心をしたのです。お蔭様で、私は3つの大きな出会いをすることができました。

1つ目はツアーに参加された全ての方々との出会いです。意を決してこのツアーに参加していなければ、恐らく今後も出会うことはなかったかも知れない、素敵な方々と面識を持つことができました。

2つ目はアーモスト大学のジョンソンチャペルで出会った同志社諸学校の生徒たち一特に本校の卒業生たちとの再会です。微かに昔の面影を残した彼らを見ると、在校中の様々な思い出が頭の中を去来しました。彼らの今のたくましい成長ぶりを目の当たりにし、小学校の先生の醍醐味を噛みしめました。

そして3つ目は、ラットランドのグレイス教会との出会いです。ここで参加した日曜日の礼拝は大変印象深く楽しいものでした。パイプオルガンとトランペット、クラリネットの3つの楽器で奏でられる讃美歌はいつもにも増して神々しく感じ、教会員の方々と声を合わせて歌ったのは至福の時でした。また礼拝後にホールで開催された昼食会では、手作りのハンバーガーやクッキーなどがたくさん用意され、ここにも教会特有の温かさを感じました。

昼食会の時にたまたま同席したコンゴ人の親子連れと短い会話を交わしたことも、印象深い思い出の一つです。内戦の激しい故郷を離れ、はるばるアメリカにやって来てからまだ8ヶ月しか経っていないとのこと。内戦の主な原因は、豊富な天然資源を巡る利権争いだと聞いたことがあります。二人とも普通に明るい表情で話しておられましたが、いつもはメディアを通して遠くから見ているだけだったニュースが肌で感じられた瞬間で、豊かさを享受する我々先進諸国の行動が、地球上の誰かに迷惑をかけている場合があるのだ、と改めて考えさせられました。そして若き日の新島を温かく迎え入れ、再び祖国へと力強く送り出してくれた人々の愛と信仰が、今もこの地の教会の交わりの中に息づいていることを感じ、とても嬉しくなりました。

新島のアメリカでの足跡を間近に見、かつ新島襄研究者として名高い本井康博先生の奥深いご説明を聞いて、大変多くのことを学ばせて頂いた旅でした。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓



グレイス教会前にて（本校のA教諭と、右側が筆者）

<お知らせ>

- ・10月14日（火）おにぎり献金
- ・国内：岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「このとりのゆりかご」、北陸学院キリスト教センター（石川県能登半島地震支援金口）
- ・海外：日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「シリア緊急募金」・「ガザ人道危機緊急募金」・「ミャンマー地震緊急募金」

今年度は上記の施設にお捧げします。賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。

2年生 UNIT 2 「Sharing the Planet」

「生き物は環境に合わせて変化する～Living things change according to their environment～」

2年生になって2つ目の探究は子どもたちの大好きな昆虫やカエルなどの生き物に関するユニットです。主に季節と生き物のつながりについて学びます。体験を重んじるDIAの学習は、教室の中だけに留まりません。まずは、学校にどんな木や花が植えられているのかを探しに行きます。春に花を咲かせた正門の桜は、青々とした葉桜に変わり、少し伸びたメヒシバの陰にはショウリョウバッタやカマキリの赤ちゃんを見つけることができました。「さて、桜の木は春夏秋冬でどう変化するのかな、想像して絵を描いてみよう。」と問いかけて画用紙を渡すと、子ども達は、春はピンク、夏は緑、秋はオレンジや茶色の色鉛筆を使って、どんどん桜の葉を描いていきました。「では冬の色は。」と聞くと、「どうしよう。雪が積もっているし白かなあ…。」同じボリュームの木にしようとする



クリスマスツリーのようにになってしまいます。そこで、子ども達は話し合います。「秋は地面に葉がいっぱい落ちていたよ。」「ということは秋の木に葉をたくさん描いてはいけないな。」「それなら冬の木に葉があるのがおかしいよ。」子ども達は、グループで相談しながら桜の木の絵を描き終えました。この秋、桜の木を見て、きっとこの授業を思い出してくれることと思います。今回はもう一つ、教室でオタマジャクシを育てる、「オタマジャクシ→カエルプロジェクト」も計画しました。4、5人のグループのテーブル

に2匹ずつオタマジャクシの入った水槽を置きました。算数の授業も英語の授業も、毎日オタマジャクシと一緒に受けます。各グループでそれぞれにかわいい名前をつけて、水替えや餌やりの役割分担を決め、カエルになるまで育てました。初めに後ろ足が生えること、手足が生えたら石などの陸地を作らないといけないこと、餌はあげすぎると水がすぐ汚くなることなど、いろんなことを学びました。そして、3週間経ちほとんどのオタマジャクシがアマガエルに成長しました。大変だったのは誰がお家に持って帰るのかということです。「何としても自分が持って帰りたい!」という思いの子ども達のじゃんけん大会は、真剣勝負でした。他にも木津川台公園で虫を捕まえに行ったり、宿泊学習で琵琶湖博物館に行ったり、夏野菜を育てたりと様々な学びを経験しました。

最後は一人ひとりが選んだ生き物の四季の変化を物語にして紙芝居を作り、発表会をしました。6週間、生き物の学びにどっぷり漬かった2年生でした。





Uniting Learning: Understanding Transdisciplinary Themes

Hello everyone,

In our recent articles, we've explored the IB Learner Profile and inquiry-based learning, using the Grade 6 Exhibition as a tangible example. As we settle into the new school year and new units of inquiry, I want to shine a light on another core component of the PYP: the transdisciplinary themes.

You might see phrases like "who we are" or "how the world works" on a classroom bulletin board or in a newsletter. These aren't just titles; they're the big ideas that frame our students' learning. A transdisciplinary theme is a central idea that connects all subjects- from math and science to art and language- into a single, cohesive unit of inquiry.

Think of it this way: instead of studying a topic in isolation, we explore it from multiple angles. For example, a unit under the theme "How the world works" might focus on simple machines. While students are building levers in a UOI class, they might also be:

- Writing about how inventors use simple machines in their language class.
- Calculating force and distance in their math lessons.
- Drawing and designing their own machines in art.

The goal is to show students that the knowledge and skills they gain in one subject are relevant and applicable in others. This approach helps them make meaningful connections and see the world in a more integrated, holistic way. This goes beyond rote memorization; it's about building a deeper understanding of concepts and their real-world applications.

By focusing on these broad, timeless ideas, we're not only teaching content but also nurturing a sense of interconnectedness. It encourages students to see themselves as part of a larger system and to use their knowledge to understand the complex world around them.

As your child begins a new unit of inquiry, take a moment to look at the central idea or theme guiding their learning. Ask them what they are learning about in different subjects that relates to that theme. This simple conversation can help reinforce the purpose behind their studies and further connect their learning to the world around them.

学習をつなぐ：横断的テーマを理解する

皆さん、こんにちは。

これまでの記事では、IB ラーナープロフィールや探究型学習について、6年生の発表会を具体的な例として探ってきました。新学期が始まり、新しい探究ユニットに入るにあたり、今回は PYP のもう一つの核となる要素、横断的テーマに焦点を当てたいと思います。

教室の掲示版やニュースレターで、「私たちは誰なのか」や「世界はどのように機能しているのか」といったフレーズを目にすることがあるかもしれません。これらは単なるテーマタイトルではなく、生徒の学習を組み立てる大きなアイデアです。横断的テーマとは、算数、理科、図工、国語など、すべての教科を一つのまとまった探究ユニットに結びつける中心的なアイデアのことです。

このように考えてみてください。一つのトピックを個別に学ぶのではなく、複数の角度から探究するのです。例えば、「世界はどのように機能するのか」というテーマのユニットでは、簡単な機械に焦点を当てるかもしれません。UOI の学習の中でこを組み立てる一方で、児童は同時に次のような活動をしています。

- 国語の授業で、発明家がどのように簡単な機械を使っているかについて文章を書く。
- 算数の授業で、力と距離を計算する。
- 図工の授業で、自分自身の機械を描き、設計する。

この目標は、一つの教科で得た知識とスキルが、他の教科でも関連し、応用可能であることを児童に示すことです。このアプローチは、児童が意味のあるつながりを作り、世界をより統合的かつ包括的な方法で見るのに役立ちます。これは単なる丸暗記を超えたものであり、概念と現実世界でのその応用について、より深い理解を築きます。

これらの広範で時代を超越したアイデアに焦点を当てることで、私たちは内容を教えるだけでなく、相互のつながりという感覚も育んでいます。これにより、児童は自分自身がより大きなシステムの一部であると認識し、自分の知識を使って、複雑な世界を理解するようになります。

お子さんが新しい探究ユニットを始めるときは、彼らの学習を導く中心的なアイデアやテーマについて少し時間を取って見てみてください。そして、そのテーマに関連して、様々な教科で何を学んでいるか尋ねてみてください。この簡単な会話が、彼らの学習の目的を強化し、学習と世界とのつながりをさらに深めるのに役立ちます。

敬具

Chris Elsdon

PYP コーディネーター

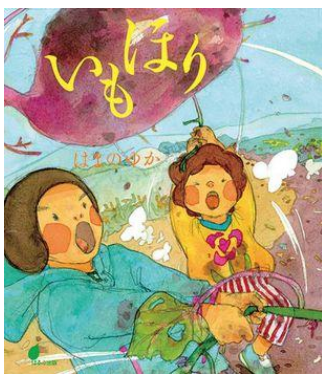


からのおしらせ

「読書の秋」

秋は夜が長く、静かに過ごせる時間が増えるため読書に適した季節であります。興味のある本をリストアップしたり、場所や照明にこだわって読書スペースの環境作りをしたり、「読書の秋」はぜひ自分の好みで本を楽しんでください。

『いもほり』作：はまの ゆか 出版社：ほるぷ出版



〈食欲の秋〉

きもちよくはれたあきのあるひ、おじいちゃんのはたけにいもほりに やってきた ふたり。つちのしたには、どんなさつまいもがかくれているかな？ やきたてのおいものあじは？ 秋の味覚をぞんぶんに楽しむ絵本です。

『ZOOM』イシュトバン バンニヤイ著 Istvan Banyai 原名 出版社：復刊ドットコム



〈芸術アートの秋〉

文字のない絵だけの絵本であるが、世界がどんどん広がり、はるか宇宙まで旅ができる本です。表から見ても、後から見てもどちらからも楽しめる！

子どもたちはページをめくる度にグイグイと絵の中に引き込まれていき、大人も想像力をかき立てられる楽しめる絵本になっています。

『チームふたり』 吉野万里子（著） 出版者：学研プラス



〈スポーツの秋〉

東小卓球部のキャプテン大地は、小学校最後の試合で最強のダブルスを組みたかったのに、5年生の純と組むことになり、がっかり。納得のいかない大地だったが、それどころではない「事件」が学校でも家でも起こる。それら乗り越えて、大地が見つけた「チームふたり」のカタチとは？

10月の主な行事・予定

10/25 スポーツデー
10/28 避難訓練
10/30 ハロウィーン

1	水	5年参観 / G5 Open Classes 5年宿泊学習説明会 / G5 Explanatory MTG of overnight trip クラブ活動 / Club activity
2	木	3年参観・学年懇親会・衣装合わせ / G3 Open classes・Convivial gathering・Costume fitting
3	金	1年参観・学年懇親会 / G1 Open classes & Convivial gathering
4	土	
5	日	
6	月	Buffer week 2年参観 / G2 Open Classes
7	火	4年参観 / G4 Open classes
8	水	6年参観 / G6 Open classes 委員会活動 / Students Committee
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	
13	月	
14	火	Unit4(week1)
15	水	委員会活動 / Students Committee
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	Unit4(week2)
21	火	
22	水	PYP プラン(午前授業) / PYP Planning (AM lessons)
23	木	スポーツデー準備 / Preparation for Sports Day
24	金	
25	土	スポーツデー / Sports Day
26	日	
27	月	代休 / Substitute holiday designated by DIA
28	火	Unit4(week3) 避難訓練 / Evacuation drill
29	水	スポーツデー予備日 / Sports Day Reserve Day
30	木	ハロウィーン / Halloween
31	金	収穫感謝祭 / Thanksgiving day きずな祭り前日準備 / Preparation for Kizuna Festival

11月の主な行事・予定

11/1(土) きずな祭 / Kizuna Festival
11/21(金) 点灯式 / Christmas Lightning Ceremony
11/25(火) 学期報告会 / Term-end reporting meeting
12/4 木
11/29(土) 創立記念日(同志社設立150周年記念日) / Doshisha Foundation Day